

～令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について～

【国語】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことはできている。
- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができている。
- △話し手の目的や意図を把握し、内容を理解したり質問したりしながら聞く力、登場人物の相互関係や心情を想像しながら読むことに課題がある。
- △話し言葉と書き言葉の違いや主語と述語の関係の理解に課題がある。

【算数】

- 「数と計算」は、平均を上回っている。
- △基礎的な計算はできるが、応用問題への適用ができていない。
- △問題形式については、特に「短答式※」「記述式※」など、設問から題意を理解し、順序だてて考え、文章表現することを苦手としていることがわかる。

【理科】

- 「エネルギー」の区分では、平均に近い。
- 問題形式について、「短答式」の設問に対しての、正答率は、平均に近い。
- △これまでの学習内容の定着が足りず、複合的な問題に適用できていない。

【児童質問紙】

- 自己有用感、規範意識は平均以上である。
- △児童の生活習慣、学習習慣については、学校、家庭、地域と連携し、全体で支え育てていく視点で取り組む必要がある。
- △高学年になるにつれて、読書に親しむ時間の確保が難しい。

<今後の取り組み>

- ・国語科では、読書習慣を身に付けるため、朝読書の充実を図る。また、授業やドリルタイムの中で、感想や考え、日記など書く活動を継続していく。話し合いの場面で、順序だてて話したり、相手の意図を意識して聞いたりする活動を授業に取り入れる。
- ・算数科では、児童の実態に基づいた授業展開、「わかる」を実感しながら学ぶ授業展開をしていく。
- ・理科では、実験や観察を積極的に取り入れていく。また、学習問題に対する予想や、結果に対する考察など、学年に応じた取り組みを続けていく。
- ・音読、自学カードへ、児童の取り組みへの保護者の一言、補充プリント、タブレットでの課題など、毎日の家庭学習の習慣化を図り、子どもの成長を共に実感できるようにしていく。

※短答式… 一語または短い語句で解答する。

※記述式… 文章での説明や表現を評価する形式。